

## ほんわりと 笑顔ほころぶ 春の風

2月17日(土)に地元で炭焼きを続けておられる藤原昭さんを講師にお招きし、熱くお話していただきました。午後からは、地区公民館と共催で世屋地区をフィールドにした4名の研究発表会を開催しました。今回は研究発表を行なった2名からイベントの報告と発表の感想をいただきました。

### 藤原さんのお話と修士研究発表会 in 上世屋と卒業の報告

京都府立大(卒業) 藤井咲紀

今冬は暖冬のため、残念ながらバイ投げをすることができませんでした。その代わりに、講師である藤原さんの「炭焼き一代記」を聴かせていただくことができました。

藤原さんは丹後半島の山間の集落に生まれ育ち、幼少期より山での生活をいろいろと身につけられました。バイ投げもそのひとつです。

25年のサラリーマン生活を経た後、再び山での生活の魅力を思い出し、炭焼きを再開されました。そして炭の商品化に成功されました。炭は、タンスや押入れの防湿や脱臭用に、あるいは米を炊くときに吸着剤として入れるというように、現代の生活にうまく取り入れられています。藤原さんは、炭のよさを活かし、手軽に利用できる商品をいろいろと編み出され、ヒットさせられたわけです。そのようなことができたのも、実際に炭を焼き、炭を使って生活した経験や山の生活で培われた人柄などが基本にあったからではないかと

感じました。特に感動したのは炭のパッケージである俵のしつらえです。このようなパッケージングは伝統的に行われてきたそうで、藤ヅル等の山にある自然の素材を用いて丁寧に作られていました。見た目の美しさもさることながら炭のお郷である山の素材、その土地の作り方で包装されていることに感動しました。

さて、この日は下世屋公民館にて、住民のみなさんにむけた修士研究等の発表会も行いました。雨が降る寒い日でしたが、たくさんの方に集まっていただき、つたないながらも研究の成果を発表することができました。中には調査でお世話になった方々もおられ、再開を喜ぶ半面、大学での発表とはまた違った緊張感を感じました。思いもよらない質問や意見に冷や汗かいたり、励まされたり…(笑) どうにか無事に終えることができました。

そして3月23日、無事大学院を卒業いたしました。調査をはじめとし、今まででお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

### 研究発表会を行って

京都大学大学院(卒業) 大岸万里子

藤原さんのお話に続き、午後から、下世屋の地区公民館で4名が今までの研究の結果を発表しました。NPOの皆さんや、地元の方も多く来ていただきました。

トップバッターは、京都府立大の大場先生。丹後の民家について、その構造の特徴や魅力、五十河集落の家屋の配置が川の水利用と密接な関係があることなどを丁寧に話されました。



2番手は、同じく京都府立大の藤井さん。上世屋地区の柿の景観パターンと地域文化に関して、柿の分布やそれが生活と密接に関連していることや、地域のなかで見られた柿の利用法について話しました。「柿を調査したことが、これからの地域の活性化にどう活かされるのか」というとっても鋭い質問に対しても、「型にはまった活性化ではなく、これからは地域の個性や特徴を踏まえた上で考えてゆくべきで、生活に根付いた柿の文化の面から焦点を当てた基礎資料として有効です」という内容のことをきっぱりと回答しました。

3番手に、私でした。上世屋地区の棚田を保全することの意義、そして棚田保全に向けた現在の関係者の意向と今後の連携について話しました。「棚田を保全するといわれても、実際にはイノシシの害で困り果てている」という切実な言葉、そしてそれに対するたくさんの頷きをいただきました。棚田をつくり続ける願望は地元にもありつつも、現実の作業が厳しく、思い通りにはならないという葛藤を大切に受け止めていたつもりでした。しかし地元の方々と前に話していると、私はやはり外部者であり、身をもって理解することは不可能なのだということを痛感しました。「外部者の視



点から気づいた魅力や方法というものをもっと突き詰めてゆきたいので、これからもよろしくお願いします」という言葉で終えました。

締めは京都府立大の三好先生。川と家屋が近く、多様な水源から水を得てきた上世屋地区と、川と家屋が遠いが、他の水源が乏しいために河川水を灌漑してきた下世屋地区の地形的な違いと、そのために生じる水利利用方法の違いを比較形式で示されました。

終わる頃には外もすっかり暗くなっていましたが、来てくださった方々も、最後まで真剣に聞いてくださいました。

この発表会を通じ、一貫して感じられたのが、地元の方は「調べられたことが実際の地域においてどのように活かされ得るのか」という視点を非常に強く持っていることでした。地域に対して何らかの魅力を感じ、研究をしたり、多様な立場で活動したりしている私たち。「地域のために」という面と、「各人の（関心の）ために」という面が介在しており、そのバランスのとれた活動が求められていることを痛感しました。

本当にありがとうございました。

## ♪♪♪ お知らせ ♪♪♪

**#5月5日(土)に「里山案内人講座・初級編」を行います。**

春の里山を散策しながら世屋の里山について学ぶ「里山案内人講座・初級編」です！平家伝説のある木子集落を歩きながら鍋淵やブナ林などを訪れます。去年は、世屋の里山で大きなブナや思いがけない大きな滝に遭遇し、お

いいワサビが広がった場所を見つけました。今回は、木子の春の里山を探検しながら、いろんな魅力を発見したいと思います。皆さんの参加、お待ちしております。

- 日時：平成19年5月5日(土) 9時45分～13時30分 ●企画担当：河嶋・橋本・篠原・芝原
- 準備するもの：防寒着, 雨具, 水筒, お昼ご飯
- 集合場所：樫丹(上世屋バス停のそば)
- 問い合わせ先：企画担当の河嶋さん [kawa-s05@plum.plala.or.jp](mailto:kawa-s05@plum.plala.or.jp) あるいは事務局(電話0772-25-0015, e-mail:kura@iio-jozo.co.jp)までお願いします。

## #5月5日(土)に上世屋樫丹にて「総会」を開催します

総会に参加できない方は、お手数ですが委任状に記入していただき、5月2日(水)までにFAXあるいは郵送にて事務局(FAX:0772-25-1414, 〒626-0052 宮津市小田宿野373 飯尾理事長宛)にお送りください。

- 日時：平成19年5月5日(土) 14～16時
  - ※審議事項：平成18年度会計報告および活動報告, 平成19年度予算案および活動案など
  - ※16時～17時に樫丹の清掃・展示作業を行ないます。お時間がある方は参加して下さい。
- 場所：樫丹(上世屋バス停のそば)
- お問い合わせは、事務局(飯尾醸造内)の秋山さん(電話0772-25-0015, FAX電話0772-25-1414)まで。

### お願い

今年度の会費の納入がまだの方は、至急振込みをしてくださいますよう、  
よろしくお願い致します。

## 委任状

2007年5月5日に行われるNPO法人里山ネットワーク世屋の総会の議事につきましては、  
\_\_\_\_\_氏に委任いたします。

年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印